

読売新聞彙報欄「よみうり抄」一九四五―一九四六

石井花奈・石川巧・泉溪春・片岡美有季・河田綾・住友直子・
仲井眞建一・宮田航平・椋棒哲也・安尾太一・渡部裕太

1 研究の目的

この研究は、「読売新聞」の文芸彙報欄として明治三十一年一〇月六日にはじまった「よみうり抄」（同月二日から掲載された「秋風録」を改題して「よみうり抄」とした）を翻刻することによって、文学はもとより、歴史、芸術、文化などの諸情報をデータベース化することを目的としている。

近年の近代文学研究においては、「作家」という主体をテキストから切り離し、テキストを構成する一要素とみなす傾向が強い。そのため、「作家」の伝記的領域に関する事項、あるいは、同時代的な状況との照合を必要とする実証研究においても、新たな調査を行わず、既成の資料をそのまま受け容れたかたちで論を展開しているものも数多くみられる。しかし、新聞・雑誌をはじめとするマスメディアの発達とともに「商品」として販売戦略の一端を担うことに

なり、固有名そのものが偶像化され（志賀直哉に「小説の神様」というレッテルを貼ったり、自然主義作家を変態趣味のもちぬしとして表象したりする行為などはその典型だろう）、偶像として文学史的な位置づけがなされる「作家」なるものの位相を考えると、同時代の新聞が報じた「作家」の諸情報をデータベース化し、生身の人間としての「作家」ではなく、マスメディアの力によって構築された肖像としての「作家」像を分析することは極めて重要な意味をもつ。

本稿が研究対象とする「よみうり抄」は、作家はもとより、芸術家、学者、文化人らの短信、消息、ゴシップについて、マスメディアが率先して情報提供を行うようになった企画の嚆矢である。「よみうり抄」の登場は、当時の新聞読者から高く評価され、その後、他の新聞や雑誌でもこうした彙報欄が一般化していくのである。

作家や文化人たちがいつどこに出かけ、誰と会い、何をしたのか

といった消息を日々の記録として集積していく彙報欄の登場によって、読者は出来あがった作品だけでなく、その創作過程や作品の背景にも精通できるようになった。講演会や研究会といった活動がどのように組織されていたのかとか、作家たちがどのような人間関係で結ばれていたのかとかいった情報にも目配りを働かせることができるようになった。

「よみうり抄」の特徴は、作家たちの旅行、滞在に関する記事、ジャーナリズムに関する情報提供、講演会、展示会、研究会などの情報提供、単行本の刊行に関する情報提供（事前の情報ゆえ、実際には刊行に至らなかつたりタイトルが変更されていたりする場合もあり、きわめて興味深い情報が得られる）、在外・外遊などに関する情報、闘病・療養などに関する情報、転居情報などを幅広く含んでいる。また、文学だけでなく、美術や学術の方面についても詳細な情報が提供されており、同時代の文化全体を包括する内容になっている。こうした情報をデータベース化することによって、これまで特定の人物の言説（それは「文壇」に象徴されるように、それぞれの文化領域を構成する集団の中心にいればいるほど広く行きわたり、中心から離れるほどかき消されていく）やその周辺に生きた人々の証言を通して形成されてきた近代の文学、文化、芸術に関する諸情報は、より事実関係に即したかたちで編み直されることになる。日々変化していく動きとして再構築されるとともに、検索機能によって諸情報を項目別・目的別に編集することも可能になる。具体

的にいえば、そこには以下のようなメリットが派生する。

- ◇ 報道記事を通して、作品の成立過程、人物の動向、人と人との交友関係などが詳らかになり、これまで曖昧だった伝記情報、書誌情報が確定できるようになること。
- ◇ このデータベースを回路として、近代文学史、文化史、芸術史、出版史などの領域を横断的に研究できるようになること。
- ◇ 近代名家はもちろんのこと、現在ではほとんど顧みられることがなくなっている人物に光をあて、研究の空白領域を埋めることができるようになること。
- ◇ マスメディアが誰をどのように報じているかが明らかになり、特定の人物の神話化、ゴシップによるイメージ作りの戦略など、人間が「商品化」されていく過程を追跡することができること。
- ◇ 様々な事実関係を多角的に検索できるようなデータベース（例えば、「熱海」という項目で検索すれば、「熱海」を訪ねた作家・文化人の足跡はもとより、そこで行われた様々な行事なども明らかに、近代文化史における「熱海」の役割が鮮明になる）の構築によって新しい研究の視点を留意すること。
- ◇ 「彙報欄」のあり方を通して、マスメディアと文化現象の相互性を明らかにすること。
- ◇ 事前に広告されながら、実際には刊行されなかつたり、タイトルや内容が変わっていたりする著作物に着目し、そこにどのような

な力が加わっていたのかを考察する手がかりとすること。

といった観点において幅広く活用することができらるだろう。また、こうした情報を共有し、より多くの人物に関する実像／虚像を考察できるようなシステムを作れば、このデータベースは人文科学研究に広く応用できるはずである。

なお、本稿には原型となる研究が存在している。それは、執筆者のひとりである石川巧が前任校の九州大学大学院で行った授業成果としてまとめた、生住昌大・石川巧・小川龍紀・楠田剛士・河内重雄・小林雄己・徐忍宇・白潔・平川梓共著「よみうり新聞彙報欄」よみうり抄・大正十五年（昭和元年）（『比較社会文化』第一二巻、一〇八頁、二〇〇六年）である。同研究では大正一五年（昭和一年）をサンプルとし、時代を下るかたちで継続的な作業を試みようとしたが、石川の転出によって頓挫した経緯がある。本稿は、この研究スタイルを継承しつつ、時代を戦後期に移して新たなメンバーで研究を試みるものである。

したがって、本稿の「1 研究の目的」は基本的に同論の記述をそのまま踏襲していることをお断りしておく。

凡例

一 本稿は、一九四五年から一九四六年にかけて「読売新聞」に掲載された「よみうり抄」を収録したものである。作成にあたっては、マイクロフィルム版「読売新聞」（読売新聞社、一九七四年作成）、および、「読売新聞」オンラインデータベース（ヨミダス歴史館）を参照した。

一 字体は、原則として新字体とした。ただし、人名・団体名・作品名などの固有名については、現在でも旧字体・正字表記が一般的と思われる場合に限り、旧字体・正字のまま記した。

一 本文作成においては、仮名遣い、送り仮名、反復記号などの表記の混用については、清濁も含めて、明らかな誤り以外は原版本とした。

一 原版活字の摩滅などの理由により識別が困難である箇所については、翻で補った。但し、前後の文脈から推測が可能なもの、あるいは、調査の結果明らかになったものに関しては、特に言及することなく、適宜補ってある。

一 句読点や中点、「」や『』などの符合は、原則として原版通りとしたが、明らかに脱落していると判断できるもの、行末で消去されているものについては適宜補った。

一 「よみうり抄」が掲載されなかった日は「なし」と記した。

一 「読売新聞」には、「よみうり抄」以外にも刊行物の案内記事が見られるが、定価等が入っているものは広告とみなして除外し

た。

一 「カフェ」、「世田ヶ谷」、「ピリニャク」などの拗音表記については、すべて「カフェ」、「世田ヶ谷」、「ピリニャク」といった表記に統一した。

一 事実関係を調査し、明らかに誤記と認められる記述に関しては、新聞記事の表記を修正した。

一 一九四五年八月の敗戦後、「読売新聞」に「よみうり抄」欄が復活するのは同年九月以降である。また、一九四五年、四六年頃は用紙の統制によって頁数が少なかったこともあり、定期的な掲載には至っていない。

2 「よみうり抄」記事内容

一九四五（昭和二〇）年

九月一六日（日）

- ▽広島で原子爆弾により罹災死した日本移動演劇連盟『桜隊』の丸山定夫以下九名の合同葬は十七日午後一時から築地本願寺で執行
- ▽川柳忌 廿三日正午から浅草三筋町童宝寺で開催
- ▽伊東深水氏 長野県北佐久郡大里村字西原土屋秀夫方へ疎開
- ▽横山大観氏 熱海市伊豆山へ疎開

九月二三日（日）

- ▽宗教報国会では廿四日午前九時から築地本願寺で戦没戦災死者の追悼法要執行、午後はその遺族二千名を東京劇場へ招待
- ▽■道文芸氏 石川県能美郡川北村中島へ転居
- ▽井伏鱒二氏 福山市外賀茂村へ転居
- ▽宮川曼魚氏 中野区江古田一の一八〇に疎開中
- ▽筈見恒夫氏 大森区田園調布四の一九七に転居
- ▽日本学術振興会 東大構内に移転

九月三〇日（日）

- ▽新居格氏 伊豆大仁の疎開先よりこの程杉並区高円寺三の三一六

の旧居に還つた

▽東郷青児氏 長野の疎開先より杉並区久我山三の二〇六に移転

▽石坂洋次郎氏 弘前市本町一の二七に転居

▽宇野浩二氏 長野県東筑摩郡島立村蛇原岩間松雄方に疎開中

一〇月八日(月)

▽蔵原伸二郎氏 埼玉県入間郡吾野村字三社大西寿太郎方に転居

▽石井漢氏 目黒区自由ヶ丘一六一白日荘邸内に舞踊教授開始

▽田辺耕一郎氏 復員とともに広島県尾道市向島桑吉町一に在住

▽澁川驍氏 杉並区成宗一の九五に転居

一〇月一四日(日)

▽潮田皓哉氏 このほど復員して茨城県西茨城郡西山内村字稲田に

定住

▽生方敏郎氏 板橋区志村本広沼三八一和敬母子寮内に居住

▽室積徂春氏 目黒区柿木坂一〇に定住『ゆく春』復刊準備中

▽清水三重三氏 立退先より渋谷区代々木初台町五四〇に転居

▽高野三郎氏 奈良県磯城郡朝倉村字黒崎、梶方に転居

▽野沢富美子氏 横浜市鶴見区東寺尾一三〇一に居住

▽佐藤武夫氏 北多摩郡東村山町回田一二九四に転居

一〇月二一日(日)

▽賀川豊彦氏 講演会 廿一、二、三日毎夕七時松沢教会(京王線
上北沢下車)

▽五所平之助氏 静岡県田方郡大仁町下町三九〇に転居

▽林二九太氏 目黒区中根町九二第三希望荘内に仮寓

▽生田蝶介氏 静岡県駿東郡小山町落合に居住

一二月二日(金)

▽芸術文化協会主催「自由新作展」五日まで銀座日動画廊

▽少国民文化協会解散に伴ひそれぞれ自由な運動の展開を試みるが、

旧児童文化協会、童話作家協会童話学会、児童芸術協会、児童芸

術研究会、児童芸術協会等の幹事はやはり一元的な児童文化助成

機関の設置を要請近く発起人会を開催する

▽独立美術協会事務所は都内小石川区丸山町六藤岡一方、明春四月

頃東京都美術館に洋画自由出品展覧会開催の予定

一二月七日(水)

▽科学と芸術の全き融合を目的として辻二郎、中野好夫、徳永直氏

らを発起人として、「日本科学芸術協会」が設立されることにな

り来る十二日午後四時半から麴町区内幸町東拓ビル地下自室で設

立集会が開かれることになった、同協会の事業は、全世界の科学

又芸術の実態調査、内外科学及芸術図書の翻訳出版、世界芸術家、

科学人の招聘や月刊総合雑誌一般大衆科学雑誌の出版が企画され

てゐる

▽さきに二科より分離生産美術に挺身しつゝ、あつた榎倉省吾、古家新、伊谷賢蔵、柏原覚太郎、向井潤吉、高井貞二、田辺三重松氏の諸氏は新日本美術の樹立を目指し今般「行動美術協会」を結成、公募展の開催、細胞組織による地方文化昂揚、育成機関の設立、読書会の開催、西山村工場方面に対する美術活動を主たる事業として新発足

▽産業別労働組合結成の時運に棹して映画界でも松竹大船、東宝両撮影所、文化映画製作会社では既に従業員組合組織運動の具体化を見つゝ、ある

十一月十八日(日)

▽村山知義氏 鎌倉市長谷大谷戸二三五に転居

▽小野清一郎氏 本郷区森川町一〇七弟子丸方へ転居

▽麻生豊氏 浦和市北浦和町二の一三七に居住

▽平林たい子氏 豊島区千川町二の三小堀方

▽長田恒雄氏 四谷区信濃町一八の一に転居

▽近藤浩一路氏 山梨県南都留群中野村字山中ゴルフ場

▽大久保康雄氏 この程復員して市川市北方八一四に定住、目下「アメリカ文化史」執筆中

▽小杉放庵氏 新潟県赤倉温泉別荘地に疎開中

▽斎藤茂吉氏 山形県南村山群堀田村に疎開中

十一月二十九日(木)

▽大衆一日講座 廿九日九時下谷区公会堂(講師 堀真琴、市川房枝各氏)

▽国文学講演会 卅日午後一時渋谷国学院大学講堂(講師 武田祐吉、金田一京助、折口信夫各氏)

十二月二日(日)

▽武者小路実篤個展 一日―五日 銀座回廊富士

▽尾崎士郎氏 静岡県田方郡伊東町岡区広野一ノ一二〇井田清別荘内に居住

▽高橋掬太郎氏 蒲田区小林町四五五に居住

▽森比呂志氏 平塚市羽衣町三五一八に転居

十二月三日(月)

▽戸坂潤遺児教育資金募集 一口捨円、締切十二月末日、宛先東京都杉並区東田町二の二一四伊東方戸坂潤遺児教育資金募集委員会、発起人新居格、三枝博音、高津正道、岡邦雄氏ら八十三氏

▽白井喬二氏 長野県南佐久郡南牧村海ノ口和泉館に転住

十二月一〇日(月)

▽中央公論(復活第一号) 一二二頁定価二円卅銭 執筆者(評論)

中山伊知郎、蠟山政道、横田喜三郎、岩淵辰雄（創作）壺井栄、永井荷風、一月一日発売

▽改造（復活第一号）一一〇頁 執筆者（評論）森戸辰男、鈴木茂三郎、平野義太郎、佐野学（創作）志賀直哉、横光利一（座談会）「日本への忠告」ニューヨーク・タイムストリビューン記者、十二月二十二日発売◇カットは川端龍子画伯

一二月一四日（金）

▽人間（創刊号）二二四頁定価四円五十銭 執筆者（評論）四谷啓治 トオマス・マン 永井荷風（創作）正宗白鳥、里見淳、川端康成、林美美子、島木健作、室井犀星、十二月廿日発売

▽新生（新年号）四六倍版六四頁執筆者（論文）山川均、尾崎行雄 東畑精一、蔵原惟人、志賀義雄（創作）永井荷風、正宗白鳥、丹羽文雄、宇野浩二、広津和郎、石川達三、十二月廿日発売

▽文学座事務所 杉並区方南町三三〇長原方に移転

▽国際文化振興会 渋谷区松濤町六七に移転

▽川路柳虹氏 千葉県市原郡鶴舞町 池知田 伊藤クニ方

▽北川冬彦氏 浦和市岸町二ノ一四七

▽福田正夫氏 世田谷区北沢三ノ九二五

▽伊藤整氏 北海道茅部部落部村から近く杉並区和田本町七一四小川薫方へ転居

▽中本たか子氏 板橋区下石神井一ノ二三二

▽国際文化振興会 渋谷区松濤町六七へ移転

▽日本文化人連盟事務所 京橋区湊町三ノ七（東亜産業ビル内）

▽E・H・ピッカリング氏 牛込区北山伏町二五土井方に居住（既報市河三嘉方は誤報に付訂正）

一二月二〇日（木）

▽「青い鳥」劇団東童クリスマス公演、神田「共立講堂」廿四日―七日迄

▽日本児童劇研究所⇨児童演劇の真摯な研究を通じて文化再建の一翼として新日本の児童文化を高揚する目的をもつて所長宮津博理事芝田圭一、江森盛彌、斎田喬により芝公園協調会館内に創立、研究所生徒の授業、舞踏訓練、月刊「児童劇場」の発行、公共用の学校用脚本の製作、講習会、研究発表会、相談会等を行ふ

▽朝鮮文化教育界⇨在日工業、資本業の援助を要望、本部大森区入新井二ノ二〇崔鮮方

一九四六（昭和二一）年

一月一日（火）

▽日英両文誌「デモクラシー」⇨タブロイド判の月刊総合雑誌で宮嶋健治、伊藤好道両氏編集、わが国民主主義の活発なる発展を期するとともにその発展過程を連合軍将兵に正しく伝へるため日英両文とし、写真、漫画等を豊富に盛つてゐる（銀座文華社発行、

価四、五〇)

▽総合雑誌「評論」 政治経済文化を主とし一月創刊、執筆者清水幾太郎、有沢広己、窪川鶴次郎、長谷川如是閑、森戸辰男、向坂逸郎他(河出書房発行、価三・〇〇)

▽歌誌「立春」 一月より再刊、代表者杉並区堀之内二ノ四一五晩香女学校五島茂

▽「キネマ旬報」 大正八年創刊以来七百余号を重ねた同誌は飯田心美、水町青磁、友田純一郎、滋野辰彦、村上忠久五氏を編集責任者として一月十五日から再刊される(京橋区新富町二ノ一六同社発行)

一月二十四日(木)

▽日本棋院新役員 日本棋院では大倉財閥との今までの関係を打ち切り棋院の独自性と民主化について研究を続けてゐたが、去る廿一日の棋士総会で次の新役員を決定新しい出発をすることとなつた
理事長瀬越八段、常任理事岩本七段、村島六段、理事加藤八段長
谷川六段、鈴木四段、三輪四段、内政部長岩本七段、普及部長村島六段

▽「猪俣津南雄全集」は山川均、荒畑寒村、向坂逸郎三氏監修で第一回配本は「農村問題読本」を三月初旬刊行

一月二十六日(土)

▽本山荻舟責任編集の「国民食」は食生活雑誌として新春より一般発売

▽音楽精神史講座(第一回「ギリシャ音楽」講師神保常彦氏)は廿六日一時半より上智学院クルトウルハイムで開催

一月二十八日(月)

▽民衆の旗 二月創刊「座談会」農村の行くべき道(連載)わが思ひ出―河上肇、神田区小川町三の八新日本文学社発行

▽新日本文学 二月創刊(論文)蔵原惟人、窪川鶴次郎ほか(隨筆)日鳥、精二、稲子(小説)徳永直、百合子ほか 神田区小川町三の八新日本文学社発行

▽働く婦人 昭和十一年創刊、同十二年弾圧で廃刊したが三月号より再刊、編集は宮本百合子女史

二月三日(日)

▽日本児童文化協会 創立準備を続けつゝ、あつたが二月中旬発起人総会を開催し正式活動に入ることになり、事務所を本郷区西片町一〇番地との四号(電話小石川四四二五)の元日本少国民文化協会事務所跡に設置、なほ戦災援護会と共催で沖縄県引揚学童慰問激励会を二月一日から十五日まで大分、熊本、宮崎の各県で開催する

▽中等学校国語教科書 新日本文学会では作家、科学者、芸人等

の実行委員をあげ近く男女中等学校教科書の編纂に着手する

発売

二月八日(金)

二月一七日(日)

▽日本科学会講演会 二月九日午後二時帝大理学部二号館『最近の
広島及び長崎の土壤の放射化学的研究』本村健二郎氏ほか、特別
講演マッカーサー司令部ドレイク中佐

▽新構造社展 再発足に方り三月一日より十日まで銀座松坂屋で同
人展を開催

▽宝生会月並能 二月十日午後一時駒込の染井能楽堂、鉢ノ木、小
鍛冶ほか

二月一日(月)

▽文芸講演会 二月二十五日(月) 午後一時於飛行館、主催新日本
文学会、講演者中野(重)、宮本(百)、土方(与)、村山(知)、
シモーノウ氏等の予定

▽『ステエジ』創刊 演劇と演芸雑誌として二月下旬紅書房から創
刊

二月一二日(火)

▽自由懇話会 十二日午前十時日赤講堂で第三回総会

▽「中等教育」創刊 特集「学園の民主化」執筆者 安倍能成、田
中耕太郎、波多野完治ほか、神田岩本町中等学校教科書株式会社

▽女流美術家協会研究所 油絵、日本画、工芸等を指導するため北
多摩郡武蔵野町吉祥寺二二三に研究所を開設、普通部(廿名)研
究部の両部を設けて中谷みゆき、桜井悦両氏の直接指導のほか長
谷川春子、仲田菊子氏らが指導、批評に当る。開講は四月一日、
申込は同所日本女流美術協会宛

▽新日本医師連盟では十七日午後二時から慶応北里記念図書館で講
演会を開催、『社会医学』宮本忍『延安より帰って』佐藤猛夫

▽新樹会創立 新居格、加藤武雄、武野藤介氏等が中心となり近く
新樹会設立、事務所は都下武蔵野町吉祥寺二五二八の武野藤介氏
方で月刊『新樹』を目下編集中

二月一九日(火)

▽読譜唱法討論会 日本音楽連盟では三月三日午前十時から上野の
音楽学校で読譜唱法に対する協議会を開き、一般参加者の自由討
論を行ふ

▽古典講座 国学院大学では第二回古典講座を二月廿五日から三月
一日まで午後三時から、講師は源氏物語(空蟬、夕顔)折口信夫

▽デモクラシー教室 本社主催日本橋三越ホールに開催中、十九日
氏

の講演者はマ司令部民間人事部陸軍少佐レイノルド女史、坂西志保女史、ほかにアメリカ「デモクラシー映画」を上映午後一時半から（入場無料）

二月二五日（月）

▽人生詩派 三月創刊号 執筆者実篤、重治、康成、繁治の諸氏発行所東京都芝区芝公園内協調會館

▽ソヴェト文化 三月創刊号（論文）堀江邑一、野坂參三、畑中

政春（隨筆）百合子、重治（小説）戦争エレンブルグ發行所東京都神田区淡路町一ノ一一大博ビル、ソヴェト文化社

▽文芸講演會 廿五日午後一時、飛行館、講師中野重治、宮本百合子、窪川鶴次郎、壺井繁治、土方与志、薄田研二、徳永直、シユトラウス（会費二円）主催新日本文学会

三月四日（月）

▽政治教育技術講習會 夫人の一票を正しく使ふために女教員有志団本部主催で三月四、七、十二、十三の四日間午前九時から三時まで、神田一ツ橋教育會館講師は市川房枝、生田花世、河崎なつ、山高しげり、平田のぶの諸氏のほか各婦人会の有志

▽日本陶磁協會 古陶磁の興味の昂揚と新陶磁の制作を活発にするため日本陶磁協會が創設された、發起人は青柳瑞穂、久志卓喜、前田茂千代氏ら卅八氏、仮事務所は東京都目黒区三谷町九六佐藤

方

三月一八日（月）

▽応用心理学會 来朝中の米國教育使節に協力するためこのほど準備委員會を結成して急速に活動に入ることになり田中賢一、淡路圓次郎らが中心となつて各種の専門部を設立中、なほ機関誌「人間科学」を發行する

▽日本童話會 東京都中野区朝日ヶ丘一六に仮事務所を設立、會員ならびに研究雜誌「童話」の原稿募集中、なほ業務内容は出版、新人推薦、研究会等

▽日本移動映写連盟 事務所を日本橋三越西館七階に移転
▽書道文化講座 廿一日午前十時より目黒区洗足一四六九日本書道美術院、講師山岸徳平、飯島春敬、田中真州、平島右郷の諸氏

三月二五日（月）

▽自由出品展 主催独立美術協會出品受付四月一日―三日、会期四月七日―廿八日、会場並びに受付所京都美術館、出品は洋画、一人三点、詳細は小石川区丸山町六藤岡一方同會事務所へ

▽戦災者、引揚者への「優しさ市」主催婦人春秋、日本美術家協會、一般より工芸、手芸、玩具等の出品を公募、搬入は四月八日、会期は四月十一日―十七日まで日本橋三越、問合せは東京都武蔵野町吉祥寺二二三女流美術協會

▽文芸講演会 廿九日正午、神田駿河台旧文化学院、主催新日本文学会、講師徳永直、窪田（鶴）小田切（秀）中島（健）佐田（稲）岩上（順）の諸氏、十時より新日本文学会東京支部結成式を行ふ
▽日本科学芸術会役員 社団法人として新発足し理事長河村敬吉博士、理事神田重隆、打木村治氏らを選出、なほ四月中旬に綜合誌「科学と芸術」を発行する

四月一日（月）

▽第廿回国画展Ⅱ公募品目は油彩版画、水彩、素描、工芸（搬入受付四月一日——三日）会期七日より廿二日まで上野公園東京都美術館
▽白日会美術展Ⅱ公募作品受付四月廿七日から廿八日、会期五月一日——十二日、会場上野公園東京都美術館（事務所は下谷区谷中清水町六）

▽日本芸術文化展Ⅱ四月一日——六日まで銀座松坂屋画廊

▽新院展Ⅱ新興美術院主催で四月二日——八日まで、日本橋三越本店にて

▽民生科学講演会Ⅱ四月六日午後一時、神田一ツ橋共立講堂（主催理化学研究所）講演者と演題「製塩の話」大山義年「ビタミンB6の話」井上兼雄「甘味料の話」藪田貞治郎の諸氏

四月一五日（月）

▽美術文化展（会期五月十六日——卅一日）作品公募 日本画、油絵彫刻、搬入五月十二、十三両日、会場上野美術館（事務所杉並区和泉町一五八佐田方）

▽国画会展（廿二日まで、上野美術館）特別陳列として梅原龍三郎 富本憲吉両氏の作品廿年史室

▽独立美術協会自由展（廿八日まで上野美術館）清水登之氏遺作数十点

四月一八日（木）

▽天文学普及講座Ⅱ毎月第三土曜日開催会場東京科学博物館講堂
▽家庭の工作与児童の模型工作相談Ⅱ毎日曜午後、東京科学博物館 理科学部陳列室で開催

四月二一日（日）

雑誌創刊

▽「世界文学」京都世界文学社▽「新中国」全文横組、実業之日本社▽「民主朝鮮」民主朝鮮社▽「青年文化」創生社▽「新詩派」新詩派社▽「技術新論」電気日本社▽「赤とんぼ」子供雑誌、実業之日本社▽「われらの科学」民主主義科学者協会編集、影考書院

四月二九日（月）

◇雑誌創刊▽「民生通信」執筆者谷川徹三、阿部知二、古谷綱武、

大原富枝その他（大阪、文化昂揚社）▽「科学公論」全日本科技

術団体連合会▽「雑談」高田保、内田誠編集、白鷗社

▽研究能Ⅱ毎月第四日曜、四月（田村）五月（砧）六月（烏頭）、
七、八月休み。九月（黒塚）十月（松風）…染井能楽堂にて

五月六日（月）

▽新生派第二回展Ⅱ十日まで（銀座松坂屋）

▽双台社展Ⅱ十二日まで（都美術館）

▽白日会展Ⅱ十二日まで（都美術館）

五月十三日（月）

▽童話教育講座Ⅱ五月十九、六月二、十六、卅の四日間大森区雪ヶ

谷清明学園、講師藤沢衛彦、石森延男氏ほか（日本童話会）

▽自由大学Ⅱ十九日より五週間毎週日曜、都立荻窪高女（自由懇話
会）

▽日本言語学会第八回大会Ⅱ十八日午後一時半、東大三七番教室講

師中島文雄、魚返善雄

▽文筆家講習会Ⅱ十一日より七月廿七日まで毎週土曜午後、課目言

語学、国語史、国文学、国語問題、実習他（神田三崎町国民の国

語運動連盟）

▽能面能装束展Ⅱ五月中（赤坂大倉集古館）

▽「国民文学」復刊Ⅱ四月号より（世田谷区松原町国民文学社）

五月二十日（月）

▽美術文化展 上野都美術館で開催中、卅一日迄

▽武田麟太郎を悼む会 廿日一時新橋駅前蔵前工業会館 全集刊行
追悼会開催等につき故人のため発言希望者の参加を歓迎、世話人
代表川端康成

五月二十七日（月）

▽民主主義科学者協会大会Ⅱ六月一、二両日午前九時上野科学博物
館

▽自然科学日曜講座Ⅱ第一期六月二日―廿三日、午前十時―午後三

時 東大理学部二号館講堂

▽創元会展Ⅱ廿日―六月三日（都美術館）

▽春陽会展Ⅱ廿九日―六月六日（日本橋三越）

六月三日（月）

▽ユマニテ美術研究所開設Ⅱ本郷新、内田巖、野口彌太郎、福田豊

四郎氏他（世田谷区世田谷二の二二二）

▽現美会第一回展Ⅱ六日―廿五日（都美術館）

▽新協劇団Ⅱ京橋区築地四の二八へ移転

▽社会主義講座Ⅱ五日より毎水曜午後三時―五時、日比谷市政会館

五階、主催社会主義政治経済研究所、社会主義学生同盟

六月一〇日(月)

▽労働文化講座Ⅱ廿五日―七月十二日隔日開催、申込廿日まで、会費十円、主催芝公園六号地協働会

▽「黄蜂」創刊Ⅱ執筆者横田喜三郎、エドガア・スノウ、桜田常久氏他(世田谷区北沢四の三七六黄蜂社)

▽新日本文学会文芸理論研究会Ⅱ蔵原惟人「新日本文学の社会的基礎」を中心に、窪川鶴次郎、小田切秀雄、十四日午後三時半(神田三崎町言語文化研究所)

六月一七日(月)

▽東京ペンクラブ創立Ⅱ河上徹太郎、青野季吉、豊島与志雄、寺崎浩氏らが中心となつて近く発会式を挙行、文化研究会、機関誌発行等の事業の外東京近郊の文化人親睦機関を設置する(仮事務所麴町区内幸町大阪ビル内生活文化社内)

▽気象 講演会Ⅱ廿一日午後一時(中央气象台中村記念館)

▽光風会展Ⅱ十九日―廿九日(日本橋三越)

七月八日(月)

▽明大文芸科夏期大学Ⅱ八日―廿七日、講師吉田甲子太郎、唐木順三、西村孝次氏外

▽日本女大夏期婦人講座Ⅱ八日―十二日、講師同校教授その他、小石川区高田老松町同校講堂

▽勤労者文化学校Ⅱ七月廿二日―九月九日、毎週月金二回、芝区東京慈恵医大、講師中島健蔵、内田巖、滝沢修氏、申込所芝区新橋七の一二文化工業館内日本民主主義文化連盟

▽日本美術史夏期講習会Ⅱ八日―十三日、帝室博物館別館講堂

七月二十二日(月)

▽慶応文化講座Ⅱ「現代科学と文化の諸問題」二十二日―八月三十日 日同学講堂、講師同学教授各氏

▽小説、評論、詩歌募集Ⅱ小説五十枚、評論三十枚、詩歌自由、締切七月末日、送り先世田谷区世田谷三の二四一五徳永直宛(新日本文学会東京支部)

▽武蔵野町図書館開館Ⅱ吉祥寺六六〇に創設、二十二日より開催

七月二十九日(月)

▽女流文学者の会Ⅱ八月中旬創立総会、世話人久米、川端、高見、林、吉屋、宇野、真杉、佐多、中里、村岡、壺井の諸氏(事務所日本橋白木屋内婦人文庫)

▽「美術工芸」創刊Ⅱ月刊の外年四回英文特集号発行(銀座聖書館内宝雲舎)

▽新生派展Ⅱ三十一日まで(日本橋三越)

▽再建綜合書道展Ⅱ八月八日まで（上野都美術館）

▽自然科学日曜講座Ⅱ八月四、十一、十八、二十五日午前十時より

東大法文経二十八番教室、会費十円（主催東大理学部職員組合準備委員会）

八月十五日（木）

▽日本文芸雑誌連盟結成Ⅱ文芸雑誌の向上進展を期し研究会、展覽会、講演会等の諸事業を行ふ、幹事長日本短歌社、庶務新日本文学会、会計文芸首都社（事務所神田淡路町二の九日本出版協会内）

▽一水会展Ⅱ九月廿一日―十月四日、上野都美術館、搬入九月十四日、十五日（事務所芝区白金三光町二五五山下方）

▽南画院展Ⅱ廿四日まで（上野都美術館）

▽天文学普及講座Ⅱ十七日午後一時半、上野東京科学博物館、会費五十銭「望遠鏡の発達と天体写真」東京天文台技官広瀬英雄「星の数と宇宙の形」同水野良平、主催日本天文学会

▽「想望」創刊Ⅱ帝大、一高、女子大有志の季刊雑誌（中野区昭和通三の三三想望同人会）

八月二十六日（月）

▽「社会」創刊Ⅱ九月下旬頃（鎌倉文庫）▽「風雪」創刊Ⅱ十月、編集委員丹羽、石川、寺崎、新庄、北条氏ほか（品川区五反田六の一九一風雪社）▽「読書」創刊Ⅱ（京橋区築地京橋図書館内東

京都中央図書館）

▽日本新劇史講演会Ⅱ廿九、卅一、九月三、五、七日保険協会議堂、楠山正雄、村山知義、土方与志氏ほか▽新派劇の歴史的回顧解説と実演の会Ⅱ卅一日二時京橋公会堂、喜多村、花柳、柳氏ほか▽梅若定式能Ⅱ九月一日多摩川能楽堂▽日本美術院展Ⅱ九月一日―

十七日、上野都美術館▽城西勤労者文化学校開校Ⅱ主催日本民主々義文化連盟、会場淀橋区柏木二の六の六東京医専講堂、申込九月七日まで、講師本郷 滝沢、中村、徳永氏ほか

九月九日（月）

▽徳永直氏Ⅱ八月壺井栄氏令妹と結婚

▽織田作之助氏Ⅱ大阪府南河内郡富田林町南町竹中国次郎方

▽張赫宙Ⅱ埼玉県入間郡高麗村新堀

▽片岡良一氏Ⅱ神奈川県茅ヶ崎町甘沼二六七

▽長谷健氏Ⅱ福岡県山門郡瀬高町下庄松屋旅館

▽頼田島一二郎氏Ⅱ尼崎市友行字南城之越三一

▽牧野吉晴氏Ⅱ都下西多摩郡西秋留村油平瀬沼孝一方

▽明治文化研究会講演会 「天皇制の確立」藤井甚太郎氏、十一日午後一時、主婦之友社講堂

九月一六日（月）

▽「中央労働時報」創刊（芝区芝公園中央労働学園）

▽「児童文化」創刊 (神田区豊島町四児童文化研究所)

九月二三日 (月)

▽三木清記念講演会 十月三日午後一時、共立講堂、講師大内、東畑、豊島、谷川、羽仁、松本諸氏、主催三木清記念事業会

▽国語学会講演会 廿八日午後一時半、東大法文経卅六番教室

▽新生日本漫画協会 京橋区銀座五の四池村ビル麻生豊事務所内

九月三〇日 (月)

▽東大公開講座 文学講座十月三日—十一月一日午後四時—六時経済学 講座十月一日—卅日 午後三時半—五時半、聴講料一講座十円 (主催東大総合研究会)

▽現代中国土曜講座 十月中毎土曜一時—三時アジアと中国、平野義太郎、世界と中国、貝島兼三郎、中国の日本論、小椋広勝、中国の生活文化、小宮義孝、申込駿河台二の一政経ビル、中国研究所、聴講料一ヶ月十円

▽竹森一男氏 このほどレンバン島から帰還、浦和市高砂町二の一七—小原弘方

▽市河三喜氏 世田谷区成城町四八

一〇月七日 (月)

▽東大歴史学研究会講座Ⅱ「日本社会の特質の史的究明」七日より

隔日 (日曜を除く) 廿八日まで、午後三時半—五時半 (東大法文経卅三番教室)

▽古典懇話会Ⅱ十三日午後一時、後楽園涵徳亭 (事務所中野区千光前町一四)

▽明治文化研究会例会Ⅱ十一日午後一時、駿河台自由出版協会、講師京口元吉、木村秀岳両氏

▽「銀河」創刊Ⅱ全文横組、少年、少女雑誌、編集顧問山本有三氏 (牛込区矢来新潮社)

▽「児童文化研究」創刊Ⅱ (芝区愛高国民校内東京児童文化連盟)

▽「詩人」創刊Ⅱ月刊詩文誌 (京都市左京区下鴨宮河町矢代書店)

▽「美之国」再刊Ⅱ美術誌、十一月号より (麴町区飯田町二の二二、電九段九九六)

一〇月一四日 (月)

▽前田河力氏Ⅱ (広一郎氏忌) 四日千葉市長州町二の五の疎開先で逝去

▽日本動物学会特別例会Ⅱ十九日十時—四時、東大理学部講堂

▽恩地孝四郎版画展Ⅱ十五日まで (丸の内岸本ビル東和ギャラリー)

▽根津美術館第六回展Ⅱ十六日—廿日、十時—四時、(赤坂区青山南町六の一—一五) ▽「群像」創刊—文芸誌 (大日本雄弁会講談社)

▽女流文学者会賞Ⅱ女流文学者作品中（単行本を含む）最優秀作品
一篇に対し正賞記念品、副賞として五千円を呈する、選考委員は
芙美子、藤子、たい子、信子ほか諸氏、発表は「婦人文庫」誌上

一〇月二一日（月）

▽古典講座Ⅱ廿一日―十一月一日毎日午後四時―六時、講師、折口
信夫（源氏） 武田祐吉（万葉） 会費廿円（主催国学院大学）

▽詩講演会Ⅱ十九日午後一時、壺井繁治、伊藤信吉、芝協調会館一
階ホール（主催日本文学会詩部）

▽各派総合俳句賞Ⅱ廿九日午後一時、芝田村町国際観光ホール、御
題柿、主催東和文化協会

一〇月二八日（月）

▽長谷川如是閑氏Ⅱ横浜市港北区太尾町大倉山

▽水守亀之助氏Ⅱ世田谷区祖師ヶ谷三の九八梅村方

▽本多顕彰氏Ⅱ川崎市渡田山王町六八

▽慶大文化講座Ⅱ十一月一日―十二月中旬、講師久保田万太郎、安
倍能成、芦田均ほか

▽現代中国土曜講座Ⅱ十一月中毎土曜午後一時より、駿河台政経ビ
ル、講師青山和夫、鹿地亘、中西功氏ほか

▽東大公開講座Ⅱ法学講座 十一月五日―十二月十二日、火、木、
土午後四時―五時半

▽新日本文学会全国大会Ⅱ廿八、廿九日、十時より、渋谷公会堂、
議事終了後宮本、中野、クボカワ各氏講演

▽上社会小品展Ⅱ卅日まで（日本橋通二の二北荘画廊）▽武蔵野会
展Ⅱ十一月一日―七日（日本橋三越）

一二月二一日（月）

▽新興作家連盟結成Ⅱ新しき文学樹立を目標に結成 機関誌「作品」
発行、加入作家は猪股、池田、北条、勝田、吉川、多田、高山、
妻木、大原、■川、柴田の諸氏（事務所神田区多町二の二早川書
房）

▽講演と音楽と映画の会Ⅱをだまき 廿五周年記念、武者小路実
篤、中河與一、徳岡恵美子、太田道子、中田喜直ほか映画「禁男
の家」

▽森戸辰男氏Ⅱ杉並区上荻窪二の一八八

▽杉浦幸雄氏Ⅱ世田谷区赤堀町一の四六

▽初期歌舞伎屏風披露会Ⅱ十五日まで早大演劇博物館

一二月一八日（月）

▽美術文化協会展Ⅱ廿二日―廿九日（日本橋三越）

▽大潮会展Ⅱ廿三日―十二月十日（上野都美術館）

▽ソヴェエト音楽のⅡ廿五日午後五時、共立講堂、演奏曲目は今春
来朝のシーモノフ氏提供の楽譜による歌劇「静かなるドン」その

他会員券十円(日ソ文化連絡協会日本民主々義文化連盟、日本現代音楽協会共催)

▽神近市子氏 世田谷区新町二ノ二三五▽久板栄二郎氏 大森区入新井町四ノ一二五電話大森四四八▽太宰治氏 都下三鷹町下連雀 一一三

一二月三日(火)

▽詩と音楽の会 六日、午後一時(大隈講堂) 講演、豊島、草野、吉田、高橋諸氏ほかに朗読、音楽▽現代中国土曜講座 七、十四、廿一日、毎回午後一時、駿河台政経ビル内中国研究所▽新憲法公布記念講演会 三日、正午(日比谷公会堂) 講師市川房枝、エスタープ・ローズ両女史、映画「キュリー夫人」▽法大講演会 磯村作博士「常用漢字表と現代仮名遣の実施について 八日午後三時法大講堂▽春陽会小品展 十二日まで、(日本橋北莊画廊)▽福沢一郎個展 五日まで日動画廊▽明日会展 十日まで(都美術館)▽淡水会展 七日まで▽斐陀工房工芸展 七日まで▽青々会展 九日まで(何れも日本橋三越)▽優良玩具展 九日——十四日(日本橋三越)▽山本有三氏 渋谷区代々木上原一七七椎貝方▽新庄嘉章氏 八王子市市安町一の五二六

一二月五日(木)

▽著作家組合委員 過般設立された日本著作作家組合の各種委員会

ならびに委員は左の如く決定 ◇著作権立法委員会 矢代亀広、

中島健蔵、戒能直孝、正木昊◇著作権保護委員会 佐多稲子、矢代亀広、美作太郎、本多喜代治、新島繁、松本真一◇生活擁護委員会 中島健蔵、岩上順一、三島一、桶谷繁雄、宇佐美誠次郎、井上孝、河盛好蔵、本多顯彰、中野重治、新居格、田中実、田口卯三郎◇事業企画委員会 宇佐美誠次郎、井上孝、土岐善磨、荒正人、新島繁、本多喜代治◇書記局 中島健蔵、岩上順一、三島一、桶谷繁雄、宇佐美誠次郎、井上孝

▽「月食」公開講演会 七日午後一時、東京科学博物館

▽「詩と音楽の会」 十日午後一時大隈講堂

▽劇場ドラマリーグ主催演劇講座 八日午前九時東京劇場 解説指導

喜多村緑郎氏実演「婦系図」

▽塩田良平氏 杉並区和田本町一二七(電、中野二五二一)

▽谷崎潤一郎氏 京都市左京区南禅寺下河原町五二

▽第一回総合ジャーナリズム講座 十二——十六日、明大五十五教室主催日本ジャーナリスト連盟、明大新聞学会

一二月九日(月)

▽田村泰次郎氏 杉並区高円寺六の六七二

▽前田夕暮氏 杉並区荻窪一の一六五

▽小田切秀雄氏 世田谷区世田谷二の二〇八五

▽ローマ字教育問題検討会 十六日午後二時、新橋蔵前工業会館、

主催ローマ字教育問題検討諸団体連盟

▽工業化学学会関東支部特別常会Ⅱ 八日九時より東大工学部廿一号室

▽歴史学研究会「歴史教育研究分科会」Ⅱ 十四日午後一時半、帝大

Y M C A・講師松田智雄氏（神田岩波書店内同会）

▽都立四工専主催芸能祭Ⅱ 八日十時、九段中講堂

▽俳優座限定公演「小さき町」「バリアス」 九、十日四時、京橋公会堂

一二月一二日（木）

▽フエミナ・ゴンクール・ルノドー各文学賞にひきつゞき、フランス文壇本年度の最後を飾るアンテラリエ賞は、九日ジャック・ネールの「時塵」に授与された

ジャック・ネールは「バタイユ」紙に勤める新聞記者だが、この作品は、財界恐怖後、乗合自動車で旅行に出かけたある銀行家が、その後自宅にひきこもつて生涯を追想に送る物語になっている（パリ九日発 AFP通信）

▽トルストイが死去したヤースナヤポリヤナーの家はこの程レオ・トルストイ博物館として開かれ、近くの同名の駅はレオ・トルストイ駅と改名された【モスクワ放送十日】（RP）

▽純文芸雑誌「文壇」創刊Ⅱ 十二月下旬発刊予定（同人）伊藤整、岩上順一、原二郎、細野孝二郎、外村繁、上林暁、北川冬彦、澁

川驍、平野謙（編集室）日本橋区室町四近三ビル三階

一二月一九日（木）

▽パリ市大文学賞 パリ市大文学賞はレオン・ポール・ファルグに十七日授与された、ファルグは一九七八年パリに生れ前大戦後めきく頭角を現してきた作家で、主な作品として「パリの徒歩者」「ラムプの下で」「孤高」などがある【パリ特電（AFP）十七日発】

▽フランス大映画賞 今次対戦中絶されていたフランス大映画賞は、ジョールジュ・ルーキエ氏の作品「ファルビック」に与えられた【パリ特電（AFP）十六日発】

▽基督教講演会Ⅱ 廿五日午後二時帝大法学部教室「日本の前途」矢内原教授▽クリスマス・レクチャーⅡ 少年少女の為の科学講座、廿五日―廿八日午前十時より、東京女子大講堂（主催東海科学専門学校）▽財政経済講演会Ⅱ 講師小汀利得氏、廿一日午後一時、丸の内帝国交通協会（日本産業経済研究所）▽「中国資料」創刊Ⅱ 資料を主とした中国研究誌、特別寄稿郭沫若孫科ほか（銀座教文館ビル中日文化研究所）

一二月二〇日（金）

▽フルトベングララーに活動許可指揮者フルトベングララー氏はドイツの非ナチ化委員会の審査をうけていたが、十七日ドイツ国内で今

後ともオーケストラの指揮を続けてよいとの許可を与られ連合国の承認をえた【ベルリン特電（I S N）十八日発】

▽日本棋院の昇段決る 日本棋院では十八日本年度昇段審査会を開き次の如く昇段者を決定した△八段藤沢庫之助△七段坂田栄男△五段小泉重郎△四段瀬尾寿、同杉内雅男、同藤沢秀行

▽日本観光映画社創立〓日本文化並に海外文化の紹介宣伝（事務所銀座教文館ビル）▽「書評」創刊〓（神田駿河台日本出版協会弘報課）

（いしい・かな 本学大学院博士後期課程在学生）

（いしかわ・たくみ 本学教授）

（いずみ・けいしゅん 本学大学院博士前期課程在学生）

（かたおか・みゆき 本学大学院博士後期課程在学生）

（かわた・りょう 本学大学院博士後期課程在学生）

（すみとも・なおこ 首都大学東京非常勤講師）

（なかいま・けんいち 本学大学院博士後期課程在学生）

（みやた・こうへい 本学大学院博士前期課程在学生）

（むくほう・てつや 本学兼任講師）

（やすお・たいち 本学大学院博士前期課程了生）

（わたなべ・ゆうた 本学大学院博士後期課程在学生）